

「新年にあたって」



香川県商工会連合会
会長 篠原 公七

新年明けましておめでとうございます。

我が国経済は、企業収益と雇用情勢の改善が続くなか、各種政策の効果もあり緩やかに回復していると言われております。一方、商工会地域においては、これまでも危惧されていた人口減少の影響が各所で拡大するなど、いまだに景気回復の実感を得るには至っておりません。また、円滑な事業承継、消費税増税・軽減税率の導入や働き方改革への対応など、中小企業・小規模事業者が対応すべき課題は山積している状況であります。

このような中、商工会では、事業者に寄り添って経営支援を行い、経営力の向上や事業承継等に注力した伴走型支援事業を展開しております。また、地方創生を推進するための各種事業も実施しております。

具体的には、持続化補助金をはじめとした各種補助金・助成金の申請支援や実行支援を行うとともに、事業者の個別的な課題解決のため、専門家を現地に派遣するなど積極的に実施しています。また、

昨年の秋には、物産展「ええもんフェスタ 2018」を開催するなど、事業者の販売力向上と販路開拓の支援を行っております。

地方創生の推進では、地域の特性を生かし、青年部・女性部とともに「商工まつり」「婚活支援事業」などの地域活性化事業にも積極的に取り組んでおります。

また、会員サービスの一環として、全国会員福祉共済、商工貯蓄共済をはじめ、各種共済制度の普及・推進にも努めております。

本年も、商工会が持つ地域経済団体としての存在意義、支援機関としての取組・強み、会員組織としてのネットワークを発揮し、各種課題に対応していく所存です。さらに、会員サービスのより一層の充実に努め、「なくてはならない商工会」であり続けることを目指して、さらに精進してまいります。所存でありますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、会員の皆様方のご活躍とご繁栄をご祈念申し上げます。新春のご挨拶とさせていただきます。

年頭にあたって



全国商工会連合会
会長 森 義久

新年明けましておめでとうございます。平成三十一年の新春を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

昨今の我が国経済は、企業収益や雇用情勢の改善などがみられ、緩やかな回復基調にあります。近年では、若年層を中心に地方圏への移住が増加傾向にあることや、外国人観光客の増加によるインバウンド需要の高まりなど、我々商工会地域には新たな可能性も数多く生まれてきております。

昨年十一月に開催した第五十八回商工会全国大会では、大型の経済対策の実施や小規模事業者への支援策の大幅な拡充などに加え、一次産業をはじめとする様々な組織との連携推進についても決意いたしました。商工会が、地域経済の牽引者として、地域一丸となつて課題解決にあたることで真の地方創生を実現できるものと確信しております。

また、今年も、昨年より見直し審議が進められている第二期小規模企業振興基本計画がスタートする年です。審議を通じて感じるのは商工会が、小規模企業政策の中心的役割を果たし、これからはその役割を発揮することが期待されていることとあります。こうした期待に応えるためにも、新

たな計画のもと打ち出される支援制度を十分に活用し、組織をあげて小規模事業者の経営支援、地域経済の振興に取り組んでいくことが大変重要であります。

加えて、少子高齢化や人口減少、働き手の不足などの社会的課題や消費税率の引き上げ、軽減税率制度の導入、働き方改革など、制度面でも新たな対応が求められております。これまでに以上にきめ細やかな伴走型支援が重要であるとともに、限られた予算・人員で十分な支援ができるよう、組織体制を改めて見詰め直すことも必要だと考えております。

昨年五月に全国連合会に就任して以降、全国各地に足を運び、国に対する要望をはじめ、地域課題、さらには商工会の今後のあり方など、未来を見据えて様々なことについて意見交換を続けておりま

す。全国津々浦々の声をひとつにし、地域に根差した唯一の経済団体として、その責務を果たすべく邁進いたしますので、引き続き皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

終わりに、全国の商工会員の皆様並びに関係各位にとりまして、本年が大きく飛躍する年となり、明るい一年となりますよう心よりご祈念申し上げます。